

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年6月25日発行 No.74

『イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。』

(マルコによる福音書 第4章39～41節)

<「礼拝音楽研修会」をチャペルで開催!! 喜びを共に分かち合える賛美・演奏とは…?>

先週末の土曜日、23日にはKIUチャペルを会場として「礼拝音楽研修会 ～歌いやすい伴奏を目指して～」が開催されました!! これは主に聖公会の教会でオルガニスト等、礼拝の音楽を担当する方のために開かれた研修会で、講師は当然我が伊藤純子先生!! また日頃からチャペルの礼拝音楽を奉仕して下さっている方々も協力してくださり、神戸教区以外にも京都や大阪からの参加者もお迎えし、有意義な研修の時を過ごす事ができました!!

礼拝に於いて、歌や演奏、つまり音楽の存在は切っても切り離すことのできない、それこそキリスト教誕生以前から連綿と紡がれて来た大切な伝統の一つです。それを今日の教会の礼拝にも生きた力として再現し、また内容を高めつつ、大切なバトンを次世代に継承して行く…。

コンサートやサッカーW杯の応援等を見ていると分かるように「音楽」そのものは人の心を癒し、また人と人を繋ぐ力を持っているように思います。KIUチャペルで行われた、この週末の小さな集いが、教会に集う方々の心を癒し、一人でも多くの人々の心を繋いでいく、そのようなエネルギーの源になっていく事を願っています。



多くの参加者の皆さんと共に、有意義な研修の時を持つ事ができました!! 感謝です!!

<「ヒロシマ平和旅考 2018」が始動!! 多くの留学生との交流も深まっています!!>

6月も下旬に入り、日中の気温や太陽の光の強さも、夏の到来を感じさせるものとなってきました。同時にキリスト教センターでも取り組みの熱が上昇してきているものがあります。それこそ毎年8月4～6日に行われる「ヒロシマ平和旅考」です!! 今年も留学生が多く参加を希望してくれており(中国4人、フィリピン1人、日本2人、ベトナム13人!!)、平和への関心が国際的に高まっている事を感じます。参加条件である昼の礼拝への出席も誠実に取り組んでくれている所も嬉しいです!! 良き出会いを!!



礼拝出席でスタンプをゲット!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月18日（月） ※この日は朝7時58分に大阪府北部を中心に発生した地震のため大学が全日休講となり、そのため昼の礼拝も行われませんでした。被災された方や非難されている方が厳しい状況にある事を覚え、チャペルでは毎日の昼礼拝で共に祈りを合わせています。

6月19日（火） ※この日は今年度初の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の演奏に耳と心を傾けました。KIUの宝であるパイプオルガンの響き、ぜひ皆さんもご鑑賞ください!! 次回は6月26日（火）です!!

6月20日（水） テーマ：「私の禁煙物語」 東 弘彦（学院事務局長）

タバコは、南米が原産のナス科の植物であり、冒険家コロンブスが西洋に持ち帰ると瞬く間に広がった。しかし習慣性・依存性があり、副流煙や火災の原因になるなど、マイナスの部分も多い。私は、学生の頃だけでなく就職後もタバコを吸っていたが、ある日タバコに支配されている自分に気付いた時、バカバカしくなってやめた。その時、それまで見えていなかったものが見えたような、ふとした気付きが与えられた様になっている。先日も悩みを抱えて下を向いて歩いていた。当然アスファルトの灰色しか見えず気持ちも沈む。しかし、ふと見上げると、真っ青な空に白い雲。気持ちがぱっと明るく、また前向きになった。私が上を見たから青空になったのではなく、気付くずっと前から空は青かったのだ。下ばかり見ていると分からないが、行き詰まっている時に、何かちょっとした気付きで、新たな展開に繋がる事がある。

6月21日（木） テーマ：「好奇心を持とう」 瀬古 悦世（経済学部）

私の授業では「最近気になったニュース」を質問する事にしている。留学生に新聞やニュースで言葉を学んで欲しいという願いもあるが、それ以上に神戸の事、日本や世界の事 etc…どんな事でもいいので「好奇心」を持ってもらいたい。以前読んだ「子供は4万回質問する」という本の中で「好奇心」には3種類（①拡散的好奇心…「知りたい」という欲求、②知的好奇心…知識を深めたいという欲求、③共感的好奇心…他者の考えや感情を知りたいという欲求）があると書かれていた。私が子供の頃、外国人の友人と遊びながら、お互いの話す言葉が違う事に気付き、その時に感じた不思議さが自分の中で好奇心となり、今の仕事に繋がっているように思う。大学は、正に好奇心を刺激し、育てる場だ。好奇心を持ち、豊かな人生を歩もう。

6月22日（金） テーマ：「中学生への聖書贈呈について」 清水 誠一（日本国際ギデオン協会）

ギデオン協会神戸支部は、神戸市、三田市、篠山市、豊岡市などの市町村で青少年が聖書に触れる機会を創出するため、毎週木曜日の朝、中学校近くの歩道で聖書を贈呈している。今年の贈呈目標は1万2000冊、婦人会の協力も受けながら、少しでも活動領域を広げられるように取り組んでいる。贈呈前には校長を訪問し趣旨を説明しているが、配り始めると「学校が見えない所でやれ!!」と苦情を言われる事がある。それにもめげずに配布を続けていると、「これが聖書!! 一度、読んでみたかったです。」と深くお辞儀をする学生に出会った。男子学生2人組は「何が書いてあるの?」「2000年前のイエスの言葉だよ、お前も読んでみろよ!!」と話をしている。「どんな時に役立ちますか?」と問う女子学生には「人生の悩みに直面した時真の愛と知恵と知識が宝となる」と答えるとニコッと笑ってくれた。多くの出会いから大きなエネルギーをもらいながら贈呈活動を続けていきたい。(文責：野間 光顕)

